GGX Finance Summit 2026 を開催しました

2026 年 11 月 2 日
GX 推進機構

10 月 26 日（月）、GX 推進機構及び経済産業省は、「GGX（Global GX）Finance Summit 2026」を開催しました。GX を取り巻く世界の状況が大きく変わりつつある中、各国における GX 政策の実現、トランジション・ファイナンスの広がり、さらに GX 産業における新たな成長について、産業界、金融界、政府、国際機関、アカデミアを交えて議論しました。

1. 開催概要

GX 推進機構（以下、当機構）と経済産業省は、10月26日（月）、「変化する国際情勢における GX の加速：成長とエネルギーの強靭化に向けて」をメインテーマに、「GGX Finance Summit 2026」を開催し、排出削減と経済成長を両立するための国際的なルールメイクをリードするための議論を行いました。

本サミットでは、国内外の有識者による挨拶や講演及び、（1）世界の視点を踏まえた GX のトレンドと展望、（2）トランジション・ファイナンスの世界的な広がりと投資拡大に向けて、さらに（3）GX 産業が切り拓く新たな成長の3つのパネルディスカッションが行われ、GX の実現に向けて今後必要な取組について議論を行いました。

2. 議論の内容・成果

開会挨拶では、GX 推進機構理事長の筒井義信が、国際環境が変化する中、GX を加速することの重要性を強調しました。続く基調スピーチでは、英国 Transition Finance Council 議長の Alok Sharma 卿より、日英双方のトランジション・ファイナンスに関する取組や連携の可能性と、民間資金の動員の重要性が示されました。

- パネルディスカッション1「GX のトレンドと展望：世界の視点から」

地政学的緊張やエネルギー安全保障への関心の高まり、AI・データセンター等による世界的な電力需要増など、国際環境が大きく変化する中、これまで以上に GX の加速化を図り、具体的なアクションに結び付け、エネルギー安定供給・経済成長・脱炭素の同時達成を目指すことの重要性を確認しました。また、GX 投資拡大に求められる政策・制度やファイナンス、GX に係るサプライチェーンの強靭化、日本と似たような経済構造を持つアジアとの連携の重要性についても意見が交わされました。

- パネルディスカッション2「トランジション・ファイナンスの拡大：実体経済の脱炭素化に向けた資金動員」

トランジション・ファイナンスを実際の投資につなげていく上で、技術コストや需要、将来

収益、政策の不確実性等が課題となっていることを踏まえ、投資環境を整備するための各国政策や金融機関、国際機関の役割について議論しました。また、各国・地域の事情を反映しつつ、国際的な枠組と連携していくことや、政府の枠組に加えて企業との対話を通じて現実的なエネルギートランジションを支援すること、新興国・地域企業や中小企業を含む幅広い主体への資金供給を促進することの重要性等について意見が交わされました。

- パネルディスカッション3「GX 産業が切り拓く新たな成長 ～日本の強みを新たな産業・投資機会へ～」

GX 投資を、脱炭素化への対応にとどまらずに新たな経済成長や産業・投資機会の創出につなげる観点から、日本が有する技術力や産業基盤等の強みをどのように活かしていくかについて議論しました。また、新たな GX 産業の創出・成長に向け、需要創出や産業間・地域間の連携、国内外からの多様な資金供給、国内外の大企業やスタートアップ、需要家や投資家等のパートナーシップといった実証から調達・商用化・成長まで進められる投資環境整備の重要性について意見が交わされました。

パネルディスカッションの前後では、東京大学石井菜穂子特任教授、一橋大学伊藤邦雄名誉教授、International Capital Market Association（ICMA）Deputy CEO の Nicholas Pfaff 氏、経済産業省伊藤 GX グループ長による講演があり、GX を経済成長や企業価値の向上につなげることの重要性や、実体経済の移行を支えるトランジション・ファイナンスの拡大への期待が示されました。

また、特別対談として、Global Impact Investing Network（GIIN） CEO の Amit Bouri 氏と当機構理事の五百森香苗の間で、インパクト投資の視点を踏まえつつ、実体経済の排出削減に向けた投資をテーマとした議論が行われたほか、加藤勝彦全国銀行協会会長及び内田和人 GPIF 理事長からの挨拶が行われました。

最後に、当機構 COO の重竹尚基より、本サミットの議論を踏まえ、①GX を「成長投資」として具体化し、日本の経験をアジアの国々とも共有していくこと、②金融を実体経済の変革と排出削減につなげること、③個々の GX プロジェクトを新たな市場や産業につなげていくこと、の 3 点を重要なポイントとして挙げました。また、産業・金融・アカデミア・政策当局をつなぎ、GX 実現に向けた具体的な解決策と新たな「共創」を生み出していく GX 推進機構の役割を強調しました（別紙参照）。

（当日の様子）

筒井理事長の開会挨拶



Alok Sharma 卿の基調スピーチ



東京大学　石井特任教授の基調講演



一橋大学　伊藤名誉教授の特別講演



パネルディスカッション①「GX のトレンドと展望：世界の視点から」



Nicholas Pfaff 氏の特別講演



Amit Bouri 氏との事前対談を振り返る五百森理事



みずほ銀行　加藤頭取の挨拶



GPIF　内田理事長の挨拶



経産省 GX グループ　伊藤グループ長の基調講演



パネルディスカッション②「トランジション・ファイナンスの世界的な広がりと投資拡大に向けて」



パネルディスカッション③「GX 産業が切り拓く新たな成長～日本の強みを新たな産業・投資機会へ～」



重竹 COO の閉会挨拶



（本資料発表のお問合せ先）
GX 推進機構（脱炭素成長型経済構造移行推進機構）
担当者：財務・サステナビリティ推進部
海部、清水、栗本、會田、岡
メール：gx_acceleration_agency★gxa.go.jp
※[★]を[@]に置き換えてください。

（別紙）重竹 COO 挨拶（原稿）

皆様、GX 推進機構 COO の重竹です。

本日は長時間にわたり、GGX Finance Summit 2026 にご参加いただき、誠にありがとうございました。また、本日ご登壇いただいた皆様、国内外からご参加いただいた皆様、そして本サミットの開催にご協力いただいたすべての関係者の皆様に、主催者を代表して、心より御礼申し上げます。

本日は、GX をめぐる世界の潮流、実体経済の脱炭素化を進める投資のあり方、トランジション・ファイナンスの更なる発展、そして GX 産業クラスターの創出について、議論が深められました。

一日の議論を通じて、私が改めて強く感じたことがあります。
世界を取り巻く環境は、大きく変化しています。インフレや金利の上昇、地政学的な不確実性など、GX を進める上での難しさもあります。しかし、今起きているのは、「脱炭素からの後退」ではありません。今日の議論にもあったように、世界各国では、脱炭素を、エネルギー安全保障や産業競争力、経済成長と一体として追求する動きが進んでいます。
日本が進めてきた GX は、まさに、エネルギー安定供給、経済成長、脱炭素の同時実現を目指すものです。こうした考え方は、世界の環境が変化する中で、むしろその重要性を増しているのではないでしょうか。

そして、いま問われているのは、この GX をいかに「社会実装」していくかです。
目標や戦略を掲げるだけでは、実体経済は変わりません。技術を事業に、事業を産業へとつなげていく GX 投資を加速化していく。そのために、産業、金融、アカデミア、そして政策が力を持ち寄り、様々分野、様々なフェーズでの具体的な GX プロジェクトを実現していく必要があります。

その観点から本日の議論を振り返ると、私は大きく三つの Take away があったと考えています。

一つ目は、GX を「成長投資」として具体化していくことです。
GX は、単なるコストではありません。エネルギー安定供給を強化し、産業の競争力を高め、新たな成長機会を生み出す投資でもあります。第1のパネルでも議論されたように、目の前の動きに一喜一憂するのではなく、長期的な潮流を捉え、現実を直視しながら取組を進化させることが重要です。日本が、排出削減が難しい産業も含め、脱炭素と成長の両立に取り組んできた経験を、企業の具体的な投資と新たな産業の創出につなげていく。そして、その経験をアジアの国々とも共有することで、それぞれの事情に即したトランジショ

ンの実現にも貢献できるのではないでしょうか。

二つ目は、金融を、実体経済の変化につなげることです。
特別対談では、投資家自身のポートフォリオの脱炭素化にとどまらず、実体経済の排出削減や産業変革に、いかに資金を向けるかが議論されました。また、トランジション・ファイナンスについても、国際的な認知が広がる中、議論の焦点は、原則から、具体的な案件形成と資金供給に移ってきています。
企業の移行戦略と技術や事業の可能性を見極め、必要な資金を届け、それを設備投資やイノベーション、新たな事業へとつなげる。金融が実体経済の変革と排出削減を具現化していく。金融が GX の中で果たすこうした役割が、今こそ重要になったのではないでしょうか。

そして三つ目は、個々の GX プロジェクトを、新たな市場と産業につなげていくことです。
GX 産業クラスターの議論からも、優れた技術が一つあれば GX が実現するわけではないことがわかります。技術・需要・制度・サプライチェーン、そして資金。これらをつなぎ、事業者・金融機関・アカデミアそして政策当局がそれぞれの力を持ち寄って、投融資可能なプロジェクトにつなげることが必要です。個々のプロジェクトを実現し、それを点で終わらせず、新たな市場・新たな産業へと育てていく。そこまで見据えて GX を進める必要があるのではないでしょうか。

GX の本質は、「共創」（共に創る「共創」）です。
そして、まさにここに GX 推進機構の役割があります。
私たちは、ハブ機能を通じて、事業者・金融機関・アカデミア・政策当局をつなぎ、GX 実現に向けた課題を見いだし、具体的な解決策と新たな「共創」を生み出します。
そして、民間だけでは取りにくい GX 特有のリスクを補完し、債務保証や出資などの金融支援を活用して、挑戦を具体的な投資や事業につなげます。
GX 推進機構は、単に資金を提供するのではありません。
関係者とともに案件を磨き、民間資金を呼び込み、インベスタブルなプロジェクトとして実現していく。それが私たちの役割です。
さらに、成長志向型カーボンプライシングの着実な運営を通じ、GX に取り組む企業の挑戦が適切に評価され、次の投資につながる環境をつくっていきます。
金融支援、ハブ機能、排出量取引制度の運営を一体として活用し、GX の実装を加速する。それが私たちの使命です。

重要なのは、本日の議論を、この場だけで終わらせないことです。
今日得られた気付きやつながりを、次の投資、次の事業、次の「共創」（共に創る）につなげていただきたいと思います。

議論から具体的なアクションへ。構想を実装に。

世界が変化しているからこそ、立ち止まるのではなく、いまやるべきことをやる。GX 推進機構も、皆様と一緒に知恵を絞り、一つひとつの挑戦を、実体経済における具体的な成果につなげていきます。改めまして、本日ご参加いただいた皆様、そしてご登壇戴いた皆様、すべての皆様に、心より御礼申し上げます。

本日は、誠にありがとうございました。